



ズバット!

## Q&A

### 頭をぶつけたら要注意! 慢性硬膜下血腫とは?

頭蓋骨と脳の上に血がたまる「慢性硬膜下血腫」。頭を打って1~2カ月後に、物忘れなどの認知症のような症状や、手足のもつれなどの症状が現れ、主に高齢者に多く見られます。放置したままにすると死に至ることもあるそうです。症状の特徴や治療法などを甲府脳神経外科病院脳神経外科の福元雄一郎医師に聞きました。



ふくもと・ゆういちろうさん  
医学博士、日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医。

甲府脳神経外科病院  
脳神経外科医師  
福元 雄一郎さん



慢性硬膜下血腫とは。



頭をぶつけて1~2カ月後に、頭の骨と脳の上に、血腫がたまる病気です。高齢になると脳が委縮し、頭蓋骨と脳の上に隙間ができて血がたまりやすくなるため、70代以上の高齢者の発症が多いと言われています。血液サラサラの薬を飲んでいる人は発症リスクが上がります。



どの程度の強さで頭をぶつけた時に注意したらいいですか。



個人差はありますが、転んで頭を強く打つだけでなく、しりもちをついて脳が揺さぶられたり、軽いたんこぶができる程度に頭をぶついたりしても注意が必要です。山梨ではブドウ棚に頭をぶつけて発症する例もありますし、サッカーのヘディングで発症することもあります。当院では年間で50~70人が診断されています。



症状の特徴は。



頭をぶつけてすぐには症状が出ず、2週間後あたりにもの忘れやぼーっとする、うまくしゃべれないなどの認知症に似たような症状が現れます。右か左どちらかの手足がまひしたり、歩くとよろけてしまったりするなどの症状が出てくるのが特徴です。放置すると、血腫が増えて脳を圧迫し、呼吸困難になり死に至ることもあります。



診断方法と治療法を教えてください。



頭をぶつけて、1カ月後ぐらいに認知症のような症状や手足の動きが悪くなったなどの症状が出たら脳神経外科を受診してください。CTやMRI検査を行い、血腫の場所や量などを確認します。血腫の量が少ない場合、飲み薬で治療することもできますが、多い場合は穿頭手術を行います。これは頭蓋骨に100円玉くらいの穴を開け、血腫を吸い出し、洗浄するというものです。手術は1時間ほどで終わり、入院期間は1週間~10日程度です。治療がうまくいき血腫がなくなると、症状もなくなり元通りになることが多いです。